1959年５月10日　県警本部長、県防犯団体協議会長より感謝状を受ける
1972年３月11日　第４回富山新聞芸能賞受賞
1973年７月15日　労働大臣表彰
1973年11月３日　桐島　貫、県教委より優良芸術文化活動推進者表彰を受ける
1974年11月３日　第１回北日本新聞奨励賞受賞
1975年11月１日　第３回富山県文化功労者表彰を受ける
1977年５月29日　アイルランド・ダンドーク国際五月祭、国際アマ演劇コンクール最高賞受賞
1977年11月１日　小泉　博、富山県文化功労者表彰を受ける
1978年11月２日　桐島　貫、県芸術文化協会より感謝状を受ける
1979年10月７日　国際児童年記念富山新聞富山こども文化グループ賞受賞
1979年11月２日　山口　翰、県教委より優良芸術文化活動推進者表彰を受ける
　　谷井美生、芸文協より感謝状を受ける
1980年11月１日　平田義人、芸文協より感謝状を受ける
1981年４月25日　ウエストチェスター国際アマ演劇祭でゴールドアワード４アワード５を受賞
1981年11月２日　谷井美生、県教委より優良芸術文化活動推進者表彰
1981年11月３日　松　鉄雄、小杉町文化功労表彰
1981年11月５日　劇団文芸座がサントリー文化財団から「昭和56年度サントリー地域文化賞最優秀賞」を受賞（クラブ関西）
1982年５月14日　小泉　博、国際ソロプチミスト千嘉代子賞中部地区賞を受賞
1982年11月１日　久郷秀男、芸文協より感謝状を受ける
　　村井弘義、荒井千穂子奨励賞を受ける
1983年11月１日　舟本しのぶ、芸文協より奨励賞を受ける
1983年11月３日　北日本新聞文化賞を受賞
1984年11月３日　黒田義昭、芸文協より奨励賞を受ける
1985年10月１日　国際交流基金「第１回国際交流奨励賞地域交流振興賞」を受賞（東京、ホテル・ニューオータニ）
1985年11月１日　角　光則、関井早苗、芸文協より奨励賞を受ける
1989年11月１日　劇団文芸座「地域文化功労者文部大臣表彰」を受ける
1990年４月９日　久郷秀男、富山北大橋欄干基本デザインコンペで最優秀賞
1990年６月22日　第１回アメリカ国際地域演劇フェスティバルで「授業」が第３位に入賞
1990年６月22日　小泉　博、アメリカ地域演劇協会より Distinguished Merit Award 受賞
1990年８月１日　久郷秀男、屋外広告美術展で最高賞
1991年６月27日　小泉　博、ハイドゥ＝ビハール県知事よりチョコナイ賞受賞
1991年11月１日　小泉　博、富山市功労（文化）表彰
　　松　鉄雄、県教育委員会優良芸術文化活動推進者表彰
1991年11月23日　谷井美夫、第40回富山県芸術祭記念奨励賞
　　久郷秀男、富山県芸術文化協会20周年記念功労者表彰
　　舟本幸人、富山県芸術文化協会20周年記念奨励賞
1992年11月２日　平田義人、県教育委員会優良芸術文化活動推進者表彰（県庁）
1992年11月５日　小泉　博、平成４年度地域文化功労者文部大臣表彰（一ツ橋如水会館）
1993年９月２日　小泉　博、ベルギー・アマ演劇連合会名誉会長（市長）より、国際アマチュア演劇の貢献に対して功労金章を受章
1995年６月４日　久郷秀男、富山新聞第13回富山風雪賞受賞
1995年11月２日　谷井美夫、北日本新聞芸術選奨受賞
1995年11月８日　小泉　博、社会教育委員会全国社会教育大会表彰
1996年２月26日　舟本幸人、第１回とやま草の根交流賞受賞
1996年５月16日　舟本幸人、平成７年度日本照明家協会賞努力賞
1996年12月18日　小泉　博、ハンガリー建国1,100周年記念大統領表彰及び銀メダル受章
1997年７月20日　久郷秀男、大嶋　武、第20回富山県こどもフェスティバル功労表彰
1997年８月24日　小泉　博、モナコ公国キャロライン王女からモナコ文化功労勲章（シュバリエ章）を受章
1997年11月４日　小泉量裕、上岸泰子、平成９年度芸文協表彰　奨励賞
1998年５月15日　久郷秀男、とやま国際草の根交流賞受賞
1998年６月25日　小泉　博、アメリカ国際地域演劇祭演技賞
1998年10月９日　小泉博代表夫妻、デブレツェン市文化功労賞チョコナイ賞を受賞
1998年11月２日　平田　純（文芸座相談役）芸文協会長　富山県功労者表彰受彰
1998年11月４日　松下健一、平成10年度芸文協表彰　奨励賞
1999年11月15日　小泉代表は外国人として初めての遼寧省文学芸術界連合会名誉委員に
2000年３月22日　久郷秀男、谷井よう子、平成11年度富山県部門功労＜文化分野＞表彰
2000年11月２日　高松理恵、平成12年度芸文協奨励賞
2001年３月11日　富山新聞文化賞芸能賞授賞式平田純（芸文協会長）　文化賞受賞
2001年４月12日　小泉量裕、とやま国際草の根交流賞受賞
2001年10月９日　小泉　博、AMU プラハ芸術大学賞
2001年11月３日　富山県芸術文化協会創立30周年記念
　　山口　翰、黒田義昭、功労表彰
　　平田義人、小沢真琴、松村貞之、奨励賞
　　久郷秀男、第50回富山県芸術祭記念功労表彰
　　川崎昌博、同奨励賞
2002年５月19日　山口　翰、富山新聞富山風雪賞受賞
2002年11月１日　山口　翰、富山県功労表彰
2002年11月１日　清田尚登、平成14年度芸文協奨励賞
2003年11月４日　谷井美夫、富山県功労表彰
2004年３月11日　小泉邦子、富山新聞芸能賞受賞
2004年５月19日　平田　純、小泉　博、中国遼寧省文学芸術界連合会王秀傑主席より特殊功献賞を受賞
2004年11月２日　小泉邦子、16年度県功労表彰
2004年11月15日　小泉　博、北日本新聞文化賞受賞
2005年２月19日　小泉　博、ハンガリー・ハイドゥ＝ビハール県議会から「愛他主義賞」（PRIZE OF ALTRUISM）受賞
2005年５月22日　黒田義昭、第23回富山風雪賞受賞
2005年７月18日　小泉邦子、芸術文化国際交流特別功労賞
2005年９月23日　黒田義昭、富山県部門功労＜文化分野＞表彰
2006年６月14日　小泉　博、ハンガリー教育遺産省でヒレル・イシュトバーン大臣より文化功労賞「プロ・クルトゥーラ・フンガリカ」（Pro　Cultura　HUNGARICA）受賞。
2006年11月１日　富山県芸術文化協会創立35年・第55回県芸術祭記念式典
　　平田義人、芸文協35年記念功労
　　黒田義昭、芸術祭55回記念功労
　　楠　早苗、芸術祭55年記念奨励賞
　　平田　純（芸文協会長）・小泉　博、ベルギー・フランドル文化省より　特別文化賞受賞
　　平田　純会長、オープン・デック・ヘネシウス金章受章
　　舟本幸人、オープン・デック・ヘネシウス銀章受章
2007年５月３日　小泉　博、小泉邦子、谷井美夫、ハンガリー・富山交流25周年記念功労金賞
2007年11月３日　小泉　博、ベルギー「レオポルト１世勲章ナイト章」を受章
2007年11月５日　小泉　博、アメリカ、モート・クラーク記念国際演劇功労賞受賞
2007年11月24日　野口康博、富山県こどもフェスティバル　第30回記念功労表彰　特別賞
　　上岸泰子、富山県こどもフェスティバル　第30回記念功労表彰　特別賞
2008年３月11日　平田義人、第38回富山新聞芸能賞　受賞
2008年11月３日　平田義人、富山県功労表彰
2009年９月20日　駐日ハンガリー・特命全権大使表彰（ワグナー・ナーンドル記念プレート）
　　平田　純先生、小泉　博、舟本幸人、表彰
2010年８月14日　小泉　博、中国遼寧省文学芸術界連合会　栄誉奨杯
　　小泉　博、中国遼寧省文学芸術界連合会　中日文化交流友好使節として顕彰

1999年11月15日　小泉　博
中国遼寧省文学芸術界連合会名誉委員

2000年３月22日　久郷　秀男
平成11年度富山県部門功労（文化分野）表彰

2000年11月２日　高松　理恵
平成12年富山県芸術文化協会奨励賞

2001年４月12日　小泉　量裕
とやま国際草の根交流賞

2001年10月９日　小泉　博
AMU プラハ芸術大学賞

2001年10月９日
AMU プラハ芸術大学賞　銀メダル

2001年11月３日　山口　翰
富山県芸術文化協会創立30年記念功労表彰

2001年11月３日　黒田　義昭
富山県芸術文化協会創立30年記念功労表彰

2001年11月３日　平田　義人
富山県芸術文化協会創立30年記念奨励賞

2001年11月３日　松村　貞之
富山県芸術文化協会創立30年記念感謝状

2001年11月３日　久郷　秀男
第50回富山県芸術祭記念功労表彰

2001年11月３日　川崎　昌博
第50回富山県芸術祭記念奨励賞

2002年５月19日　山口　翰
富山新聞富山風雪賞

2002年５月19日　山口　翰
富山新聞富山風雪賞　盾

2002年11月１日　清田　尚登
平成14年富山県芸術文化協会奨励賞

2002年11月１日　山口　翰
平成14年度富山県功労表彰

2003年11月４日　谷井　美夫
平成15年度富山県功労表彰

2004年３月11日　小泉　邦子
富山新聞芸能賞

2004年３月11日　小泉　邦子
富山新聞芸能賞

2004年５月19日　小泉　博
中国遼寧省文学芸術界連合会　特殊貢献賞

2004年11月２日　小泉　邦子
平成16年度富山県功労表彰

2004年11月15日　小泉　博
北日本新聞文化賞

2004年11月15日　小泉　博
北日本新聞文化賞

2005年２月19日　小泉　博
ハンガリー、ハイドゥビハール県議会
「愛他主義賞」（PRIZE OF ALTRUISM）

2005年２月19日　小泉　博
PRIZE OF ALTRUISM
トロフィー

2005年５月22日　黒田　義昭
第23回富山新聞富山風雪賞

2005年５月22日　黒田　義昭
第23回富山新聞富山風雪賞　盾

2006年６月14日　小泉　博
プロ・クルトゥーラ・フンガリカ
「ハンガリーの文化に功績のあった外国人に授与される」文化功労賞

芸術文化国際交流
特別功労賞
小泉 邦子

2005年７月18日　小泉　邦子
芸術文化国際交流特別功労賞

表彰状
黒田義昭殿

2005年９月23日　黒田　義昭
富山県部門功労（文化分野）表彰

表彰状
平田義人殿

2007年11月１日　平田　義人
富山県芸術文化協会創立35年記念功労表彰

表彰状
黒田義昭殿

2007年11月１日　黒田　義昭
第55回富山県芸術祭記念功労表彰

奨励賞
楠早苗殿

2007年11月１日　楠　早苗
第55回富山県芸術祭記念奨励賞

2007年11月１日　小泉　博
ベルギー・フランドル文化省
特別文化賞

2007年11月１日　小泉　博
ベルギー・フランドル文化省
特別文化賞　記念メダル

2007年11月１日　舟本　幸人
ベルギー・オープンデック・ヘネシウス　銀賞

2007年４月29日　谷井　美夫
ハンガリー・ハイドゥビハール県
ラーツ・ローベルト知事より
富山交流25周年記念功労表彰
小泉　博・小泉邦子・久郷秀男
谷井美夫・舟本幸人・高尾真澄
山口　翰・黒田義昭・小泉量裕
松下健一

2007年11月３日　小泉　博
ベルギー王国・「レオポルト１世勲章ナイト章」伝達状

2007年11月３日　小泉　博
ベルギー王国・「レオポルト１世勲章ナイト章」

2007年11月５日　小泉　博
IATA. U. S. A センター
アメリカ・モート・クラーク記念国際演劇功労賞

2007年11月24日　上岸　泰子
富山県こどもフェスティバル第30回記念功労表彰

2008年３月11日　平田　義人
第38回富山新聞芸能賞

2008年３月11日　平田　義人
第38回富山新聞芸能賞　楯

2008年11月３日　平田　義人
富山県功労表彰

2009年９月20日　小泉　博
駐日ハンガリー大使表彰

2009年９月20日　小泉　博･舟本幸人
駐日ハンガリー大使表彰
記念メダル（ワグナー・ナンドル）

2009年９月20日　舟本　幸人
駐日ハンガリー大使表彰

2009年12月11日　小泉　博
チェコボヘミアバレエより
「マッチ売りの少女」初演記念

2010年８月14日　小泉　博
中国遼寧省文学芸術界連合会　栄誉奨杯

2010年８月14日　小泉　博　中国遼寧省文学芸術界連合会
王秀傑主席より中日文化交流友好使者として顕彰
陶芸作家・陳仲琛先生作　友好の花の懸橋

「アルトルイズム賞」考
Altruism Prize

㈳富山県芸術文化協会
名誉会長　平 田　　純

キリスト教には七つの大罪といわれる、教徒たる者が犯してはならない罪がある。anger 怒り，covetousness 貪欲，envy 羨望，gluttony 暴食，lust 情欲，pride 傲慢，sloth 怠惰である。そして、薦めるべき七つの美徳として掲げられているのは charity 慈悲，faith 信仰，fortitude 剛毅，hope 希望，justice 正義，prudence 慎重，temperance 節度である。これらはいずれも、キリスト教徒でなくても、人として守るべき徳目であり、大罪とされるところは、近づくことを慎むべき悪行である。だが、こういった項目を掲げていること自体、これらが如何に守りがたい所行であるかを物語っているに他ならない。七つの大罪はどれも、私たちを誘惑する。欲しい欲しいと思い、隣の芝生を青く見て嫉む。グルメ志願であり、酒池肉林を夢み、己ほどの者は居ないと天にうそぶく。さりとて、まともに額に汗することはしたくない。居ながらにして一攫千金、玉の輿を願う。そう言われて振り返ってみると、自分の中に巣くっている、ちゃちで卑しいものが、其処に網羅されていることを知る。一方、美徳の方は、そうありたいと願いながらに、何となく近づき難いものを感じている。つまり、大罪は我々の中にあるものだから、其処から脱却しろと薦めているのであり、美徳の方は、なかなか人間の間に見いだせない徳目だからこそ、そこに至れと説かれているのだ。己を中心にして離れられない性（さが）。己を離れてあるべき姿に至ろうとする努力。まさしく、パスカルの言う中間者的存在としての人間の宿命的業苦である。

近世は自己追求と確立の時代であった。自我と訳されている ego の確立である。それは中世の神に覆われた、神に集中し集約していく体制から、人間性に目覚め、人間性を肯定する動きであった。egoism 自我主義がそれである。しかし egoism は egotism と混同されることが多かった。すなわち自己中心的な考え方、利己主義といわれるものである。エゴイズムは人格陶冶のあるべき自己という目標から逸脱して、利己に大きく傾斜していったのも、自ずからなる自然なあり方であった。

だからこそ、人間社会が理想的境地に達することを求めた多くの人たちがいた。その一人であるフランスの哲学者 Auguste Comte（1798－1857）は実証主義的立場に立って、個人と国家が調和して安楽に暮らせる社会を目指した。そのためにも、彼は egoism の対極にあるものとして altruism を概念化した。この語はイタリア語の「外の人たちの、他者への」を意味する altrui を幹にして、それに「主義」などを表す語尾 -ism が加えられたもので、1853年にコントが初めて使った語である。「愛他主義」と訳されているこの語は、ある辞書の説明では「自分自身の幸福や必要よりも、外の人たちのそれを心がけること」であり、また別の辞書では「たとえその結果が自分に不利益になっても、外の人たちを益する事柄を進んでやること」なのである。

1982年、６月下旬に、演劇交流のために、初めてハンガリーのデブレッツエン市を訪れて以来、小泉博さんは演劇関係だけでなく、其処で培われた人間ネットワークを通して、富山とハンガリー・デブレッツエン間の幅広い芸術文化交流を推進してきた。小泉さん自身、時には二ヶ月もかの地に滞在してプロ劇団の指導に当たり、「夕鶴」、「イワンの馬鹿」、「夜の来訪者」など日本の演劇を演出・公演したり、今日までに、交流のため、それも自費で渡航すること、優に五十回を超えている。富山の芸術文化人のハンガリー訪問交流（音楽、舞踊、美術、華道、茶道、民舞、など、実に広範囲にわたっている）だけでなく、向こうから、例えば「コダーイ合唱団」、「プレ

イヤーズ・スタディオ・デブレッツエン」、「ヴォイテナー人形劇団」などの優れた芸術団体の外、優れた声楽家、彫刻家、画家などが富山を訪れて交流を深めているが、その源流はことごとく小泉さんが彼らの間に得られた信頼と友情によるものであることは、いくら強調してもしすぎることはない事実である。それは自己のための活動ではなく、芸術文化のための、そして富山とハイドゥ・ビハールの、日本とハンガリーの芸術文化を仲立ちとする友好交流のためであった。

その事実を誰よりも深く感じているのは、ハンガリー、デブレッツエン市及びハイドゥ＝ビハール県当局であった。その現れの一つが、平成17年（2005年）２月19日に小泉さんに贈られた「ハイドゥ・ビハール県議会　愛他主義賞」であった。2002年、ハンガリーのハイドゥ・ビハール県議会は、政治の分野を除いて、経済、文化、学術などの色んな領域で、利益追求に関わりの無く推進されている活動に対して、毎年一人を選んで表彰することにした。対象はハンガリー人だけでなく、外国の人も含まれる。この賞の存在そのものが、愛他的行為が、まれにしか見ることの出来ない人間的行動であることを示していると言えよう。この賞を贈られたことは、小泉さんの「それ自体を愛して、利益追求と関わりない行動原理」（これこそ、アマチュアリズムの極地ではないか）が正しく評価されたからに他ならない。因みに小泉さんは、それまでに既にハイドゥ・ビハール県チョコナイ賞（文化功労賞）、ハンガリー共和国建国千百年記念功労として大統領表彰、デブレッツエン市チョコナイ賞（文化功労賞）を受章されている。そして、外国人として愛他賞を贈られた二人目であるという。

もう一言この賞について敷衍しておきたいことがある。この賞と共にペリカン像が贈られている。ペリカンは誰もがご存じであろう。辞書で引いてみると、「大きな白い水鳥。下くちばしが大きな袋のようになっているのが特徴」（新明解）とか、「全蹼目の海鳥。大きさ白鳥くらい。体は白色、翼の風切羽は黒褐色。嘴は長大で、すくい捕らえた魚を下嘴にある大きな嚢に貯える。雛は親鳥の口の中に頭を入れて餌をとる。ヨーロッパの東南部から北アフリカ、中国の沿岸に多い。外に類似のオペリカンなどがいる。ガランチョウ。」（広辞苑）とある。だが、愛他賞とペリカンの関わりは分からない。

ペリカンに関して、ヨーロッパ文化には、エジプトに起源を持つ寓話がある。ペリカンの雛は空腹になると羽根で親を打つ。打たれた親は雛を殺してしまうが、すぐに親鳥が右の胸から血を出して、それを死んだ雛に振りかけて生き返らせるというのだ。ここから発して、ペリカンは復活の象徴となり、また、（ペリカンが嚢に貯えた餌を口を開いて雛に食べさせるのを、）自分の身を傷つけて、己の血を与えて雛を蘇らせていると見たところから、自らを犠牲にし、自らの血で救う慈愛の象徴とされて、更にそこからイエス・キリストの受難に結びつけられ、自己を犠牲にして他者のために尽くす行為に象徴とされてきている。

鳥が大空を飛翔する姿は美しい。ヨーロッパの古い時代に、人々はペリカンの背後に自己を犠牲にする慈愛の姿を思い重ねたのであった。愛他賞とペリカンが結びつく由縁である。

（この小文を記述するに当たり、ハンガリーの優れた舞台演出家ピンツェーシュ・イシュトヴァーン氏から教示されたところが大きい。記して感謝の意を表する。）

（富山大学名誉教授）